

『专家：微生物替代抗生素是食品安全的出路』（2018年2月26日凤凰新闻综合）



『専門家：抗生物質の代替としての微生物が、安全な食品に活路を切り開く』

2月26日、金鋒実験室は北京で「安全な食品と健康」という討論会を開催した。参加者たちは、微生物技術を応用した農業・畜産・水産業や、微生物を利用した農薬や化学肥料、微生物飼料をもって、抗生物質や基準を超えた化学農薬、その他の添加物に全面的に代用し、根源的に「舌の上の安全」を保障するという非常に興味深い問題について議論し、「このことによつてのみ、人々が本当に安心して肉や魚、穀物や果実、野菜を食することができる」という認識を共有した。

会議では、中国科学院研究員金鋒氏と農業部研究員の趙玉田氏が基調講演を行った。また、金鋒氏の指導の下で抗生物質の代わりに微生物を用いた飼料で養豚や養鶏を行った一部の参加者たちは、その喜ばしい実験結果を発表した。

金鋒研究員は十数年来の研究を通じて、微生物と心理的疾患の間に関連性があることを発見した。金鋒氏によると、現代では心理的疾患を抱えた人が増加しており、生理的疾患の患者数をはるかに上回っている。「人間の心理的疾患は、腸内フローラのバランスの乱れと関係があり、遺伝や神経的な刺激との関連性は比較的少ない。抗生物質こそが、人間の腸内環境のバランスを乱す主な原因である。」と金氏は指摘する。金氏は、人類の「三高」（訳者注；血圧、血糖、コレステロールが高い）や、癌や各種のアレルギーなどの原因不明の諸症状の背景には、抗生物質の影があるという。



抗生物質の乱用は、21世紀最大の汚染源になっている。抗生物質は病院で乱用されるだけでなく、真の乱用者の名にふさわしいのは農業、養殖業や水産業などの食品業者だ。抗生物質の使用程度は病院を上回っているだけでなく、人々は抗生物質を拒むことすらできない。これらの抗生物質は食品や家畜の排泄物を通じ、人々の健康や生存環境、例えば水や土壌などに重大な影響を与えている。

目下、世界の国々で乱用されている抗生物質や農薬、防腐・品質保持・調味等の効果を有する各種添加物はひどく憎むべきものだが、抗生物質に変わる代替案が見つからなかった。養殖や栽培農家では、毒素が含まれた食品を食べない人々は少なくないが、彼らは都市でそれらを売り、他人に食べさせている。法律によって厳しく食品の安全を確立する必要があるだけでなく、欲に目がくらみ道徳を忘れた人々を糾弾し、廉価で代替品が手に入るようにし、抗生物質と添加物の使用停止による農民の損失を軽減させることが必要で、徹底的に問題を解決しなければならない。

微生物と人間の健康、食品の安全との関係は、近年国際微生物界における主要な議題になっている。各国の科学者が大量の文献を発表しており、様々な角度からその重要性を論じるなど、微生物の応用はすでにグローバルな産業となっている。金鋒研究員は長年の経験に基づき、養殖や栽培、人体の補助的治療に至るまで、微生物技術を応用した人類の健康について研究を深めており、中国や日本で長年にわたる応用例がある。中国は農業大国で、伝統的な養殖・栽培大国でもある。人口は非常に多く、気候や自然の地形は多様性に富み、各種の菌を開発するために唯一無二の条件を持っている。微生物を基本にした飼料、農薬、肥料などの産業の発展には有利であることから、中国農業は徹底的に高汚染、低価値の産業的現状から抜け出すことができる。微生物は中国産の安全な食品を作りだすのに貢献し、中医学・西洋医学が密接に結び付いた新型の治療理念と方法を生み出すことができる。

専門家らの意見によると、安全な食品が多くの人々の元に長期間に行きわたるようにするためには、特定の部門や単独の専門分野が問題を解決するのではなく、全世界の幅広い関心と関与が必要である。今回の討論会の最大の特徴は、参加者が多様性に富んでいたことだ。30数名の参加者には、経済学界の泰斗氏や、著名な経済学者の呉敬璉、医学専門家、中国工程院副院長の樊代明会員、国家発展改革委員会、国資委員会、建設部、環境部等政府関係部門で幹部経験のある杜鷹、邵寧、仇保興、周建等、重点病院の幹部グループ、著名な国家企業や民間の経営者などが含まれていた。参加者は多領域・多角度から安全な食品を実現することの複雑性や、微生物技術を推進することの切迫性を議論し、専門家や学者、経営者の社会的責任と役割を話し合った。